

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690600032		
法人名	医療法人 三幸会		
事業所名	ケアサポートセンター宝ヶ池		
所在地	京都市左京区上高野薩田町11-1		
自己評価作成日	令和3年6月20日	評価結果市町村受理日	令和3年8月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JkyosyoCd=2690600032-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JkyosyoCd=2690600032-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町2-1		
訪問調査日	令和3年7月16日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者1人ひとりの思いに寄り添い、「笑顔」で過ごして頂けるように努めています。認知症になって自宅では生活できなくなっても、家族との関係を断ち切ることなく、スタッフと家族が共に支える事が出来る事業所を目指しています。コロナ禍であり、面会が出来ない状況ではありますが、ほんなり(グループホームのお手紙)を月2回、ライン電話や動画を提供しています。また、入居者様の変化等があれば電話連絡する事を心掛けています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

比叡山が一望でき、周囲を宝ヶ池公園や岩倉の山に囲まれた住宅地に位置する、1階に小規模多機能事業所を併設する2008年に開設した1ユニットの事業所です。コロナ感染予防対策による様々な制限や自粛の中であっても、敷地内での外気浴や近隣への散歩などに取り組み、気分転換ができるよう支援しています。コロナ禍の中で着任した管理者は現場に入ることが多く、職員とのコミュニケーションを図りながら、ケアの質向上に意欲的に取り組んでいます。家族との信頼関係や、入居者の思いを汲み取ることを旨とした理念を掲げ、SNSを活用したオンライン面会や動画の提供を行い、コロナ禍の中であっても家族との関係性が途切れない支援をしています。また、入居前から調理や掃除が好きであった方に、役割を持ってもらい、ホームの中の生活においても以前の楽しみが維持できるようにしています。食事は3食手作りで、入居者と職員が一緒になって調理をしたり片付けをしたりしながら、楽しみを持って生活できていることが窺われます。家族からお弁当の差し入れがあったり、おやつを近隣の洋菓子店から購入したり、食べることへの楽しみを継続できるようにもしています。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			<input type="radio"/>	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は「信頼関係」と「笑顔」であり、利用者だけでなく家族との信頼関係を深めるように、職員から積極的に情報を発信しコミュニケーションの充実を図っている。利用者、家族、職員のすべてが笑顔で過ごせるように支援していきます。	事業所理念は玄関先に掲示されており、職員・来訪者へ周知しています。理念には入居者の思いを大切にすること、ご家族との信頼関係を大事にすることが込められており、管理者は日々のサービス提供が実践できているかを確認しながら職員とかわりを持っています。	職員への理念の浸透に工夫が必要と考えます。理念はサービス提供や、職員の指導・教育の軸となるもので、様々な機会に理念を意識し、その実践の確認を行う必要があります。朝礼での唱和や、会議時に理念とその実践について触れられてみてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、地藏盆や区民運動会に利用者職員で参加している。地域の保育園との交流や中学生のチャレンジ体験も受け入れている。また、合唱やギターレクに地域の方がボランティアで来て下さっている。今回、コロナ禍で実施出来なかった。	町内会への加入はしており、地域の季節行事や近隣の小中学校との交流もありましたが、現在はコロナ禍の影響により中止になっています。外気浴等で外に出た際に、近隣住民と顔を合わせた際は、挨拶をする関係性になっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	岩倉・上高野の地域ケア会議に参加し、徘徊訓練の参加をしている。地域の小学校で認知症講座のお手伝いもしている。今回、コロナ禍で参加出来なかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長・地域包括支援センターの担当者、家族の代表、地域の方等のメンバーにより2か月に1回開催している。困難事例や事故報告時の対応についての助言をもらったりしている。また、地域ボランティアの紹介もしてもらっている。今回、コロナ禍で書面での開催となった。	現在は2ヶ月に一度の書面開催としており、地域包括職員や社協職員からは、事前に書面で意見をいただくようにしています。事前の意見照会では、事故への対応や運営に関するアドバイスもいただいています。議事録は家族・地域包括に配布しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	左京区の介護保険事業者連絡会に参加している。意見交換するなど協力関係が築けるよう努めている。また、地域包括支援センターの職員には、運営推進会議毎回参加してもらっている。	運営推進会議議事録は小規模多機能事業所の管理者が役所の窓口に出向き、手渡しにて提出しています。今年度より、役所主催の事業者連絡会はオンラインでの開催になっており、小規模多機能事業所の管理者が参加し、その内容をグループホーム管理者に報告をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として身体拘束マニュアルを作成し、職員全員に開示している。事業所としては、外部の研修にも参加して伝達研修を行っている。日中の玄関の施錠は行っていない。外部研修は、コロナ禍であり参加していない。	身体拘束適正化委員会を設置し、委員会活動及び職員研修を実施することになっています。「虐待の芽チェックリスト」により、職員の身体拘束及び虐待の意識付けや、日頃のケアの振り返りを行っていましたが、本年度については、今後の課題となっています。スピーチロック等の不適切な声掛けがあった場合は、管理者とも言えども職員から注意を受けるなど、職員間での不適切ケアに対する意識は高くなっています。	現在のところ、年間研修計画や委員会活動のスケジュールが定まっておらず、早急な立案が求められます。特に、法定研修や減算要件に当たる研修の立案は急務で、併せて管理者の想いを実現させるために必要な研修の計画は不可欠であると考えます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、マニュアルの作成、開示している。年1回のペースで研修を実施しているが、今回コロナ禍で研修実施できなかった。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で研修を行っているも、今回、コロナ禍で開催できなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間をかけて行い、各事項に対して細かく説明、また不明点がないか確認し、安心して契約をしてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話等で家族からの意見や要望も聞くようにしている。問題点については、すぐに改善する取り組みを行っている。	入居者一人ひとりの様子をしたためたお便り「はんなり」を作成し、家族へ送付しています。コロナ禍の影響により、面会制限等があることから、はんなりの作成を月2回に増やし、意見も貰えるようにしたことから、好評を得ています。また、日用品を家族が持参した際には、玄関先で話を聞いたり、オンライン面会やSNSを通じて様々な想いや意見を聞き取ったりするようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を実施し、業務やケアについて職員同士の意見交換を行っている。 なるべくすべての職員が参加出来るように申し送り中に開催することもある。会議後は議事録を作成し職員に周知している。日誌に記載することもある。	毎月のグループホーム会議で、一人ひとりの入居者の状態を共有し、ケアのあり方などの職員意見を聞き取るようにしています。食事介助に時間がかかるようになってきたことから、職員意見を採用し、昼食の時間を早めるなど、職員意見が実務に活かされています。また、敷地内外出を行う際には、小規模事業所の職員の手を借りるなど、よりよい運営になるための職員意見を積極的に取り入れています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として賞与や処遇改善費用のお知らせや説明会を実施している。また、人事担当者との面談も適宜行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験やスキルに応じた研修に参加出来るようにしている。介護福祉士や介護支援専門員資格取得については支援制度がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩倉や上高野の地域ケア会議、医師会主催の研修に参加している。また、外部研修を通じて他事業所職員との交流もある。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接は、時間をかけて行い、本人の思いや維持されて能力の把握に努めている。安心を確保できるように、早い段階での信頼関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の意向確認と並行して家族の意向確認も行っている。本人への思いや家族状況等を把握し事業所として対応できることを提案している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思いや家族の思いをしっかりと聞き取り、また本人の身体機能や精神機能を総合的に判断した上で適切な支援を行うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員全員が大きな意味での家族として、本人汚支援を行い、介護するもの、されるものとならないように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所での様子を月2回のお便りやライン電話や動画、面会等で日々の様子を伝えている。コロナ禍で面会出来ない状況だが、少しでも顔をお互い見れるように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外に親戚や友人の面会もあり、居室でゆっくりと過ごしてもらえるようにしている。また、家族にも一緒に外出の機会を持てるようお願いしている。今回、コロナ禍であり外出や家族以外の面会なかった。	現在はコロナ感染予防対策により、対面での面会ができないことから、オンライン面会を積極的に推進し、本人・家族の関係が途切れないように支援しています。コロナ禍の影響により、大幅な活動自粛はあるものの、誕生日の花束やクリスマスカードを届けてもらったり、遠い親戚から食べ物の差し入れをしてもらったり、現在の環境下でできる限り、馴染みの関係が途切れないよう工夫しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	現在女性9名がご入居されている。日々、仲良く和気あいあいとした雰囲気でご過ごしている。本人の残存機能を活かし洗濯物や調理などのお手伝いをお願いしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もしばらくは電話連絡するなど困りごとがあればいつでも相談できる関係を継続している。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族から生活歴や趣向、ここでの暮らし方について希望を聞き取り、職員同士でも意見交換を行い必要なサービスの提供に努めている。	MDS方式を採用し、細かなアセスメントを行うことで、本人の思いや意向の把握ができるよう努めています。日頃の関わりの中で得られた情報は、経過観察記録や支援経過記録に記載、申し送りなどを活用し、職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時に本人や家族から聞き取りを行っている。また、入居前にサービスを利用されていた場合には、担当ケアマネジャーや相談員から情報提供をしてもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に最新の情報収集に努め、職員との意見交換を行い、必要なサービスの提供を心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的に入居者・家族より電話や面会等で情報収集を行い、必要なサービスの提供を出来るようにしている。また、カンファレンスで職員同士の意見交換を行い現状に即した介護計画を作成している。	経過観察記録には、介護計画の短期目標が記載されており、介護計画を意識したサービス提供ができるよう工夫されています。介護計画の意識については職員によりバラつきがあるため課題があります。介護計画の見直しは短期目標の期間(6ヶ月)で、状態変化があった際は適宜見直しを行っています。見直しの際には、往診時の医師の意見やアドバイスを聴き、必要に応じて医師もサービス担当者会議に出席してもらっています。モニタリングも6ヶ月毎に実施し、毎月のカンファレンスで見直しの必要性を検討しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過観察記録に「気づき」の欄を作っており、職員の「気づき」を記入できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者・家族の意向を聞き取り、職員同士が連携し日々の変化に対応できるように心掛け、固定概念に捉われないサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の店舗での買い物や、ランチを楽しんでいる。地域の保育園や児童館との交流もある。今回、コロナ禍であり実施できなかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からかかりつけ医に定期定期に往診をお願いしている。また、家族の希望により、定期受診をされている方もおられる。かかりつけ医のいない方には往診対応できる医師を紹介している。	往診可のかかりつけ医は継続できるようにしています。現在は複数のかかりつけ医の往診があり、かかりつけ医により往診のサイクルが異なるため、往診日時の調整や変更を臨機応変に行っています。訪問歯科も複数入っており、毎週の口腔ケアやその指導を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日、訪問看護師の訪問があり健康管理をして頂いている。体調不良等異変があれば電話にて対応。必要時は訪問して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを送ったり、電話にて情報提供を行っている。面会や電話連絡により状態の確認や情報交換を行っており、可能な限り退院前カンファレンスにも参加している。 今回、コロナ禍で開催できなかった。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化・ターミナルケア対応について話をしている。体調に変化があった時には医師も同席し、状態の説明をもらい今後について話し合うようにしている。	「重度化対応・終末期ケア対応指針」を作成し、入居時に説明及び同意を得ています。この一年は看取りはないものの、主治医や訪問看護ステーション・家族と相談しながら、看取りを行えるよう体制を整えています。	入居時に、終末期や看取りに関する意向確認は行っていますが、一定期間経過後の再確認も必要なことです。状態変化や計画の見直し時などに、定期的に確認されてはいかがでしょうか。また、看取りに向けた職員研修も不可欠であることから、計画的に実施されることが望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命やAED使用の講習を年1回開催している。 今回、コロナ禍であり開催できなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施している。自然災害(地震発生時)の対応や、夜間想定避難訓練では2階からの避難方法をシミュレーションし実際に避難誘導する訓練をしている。 今回、コロナ禍であり実施出来なかった。	消防署の協力により、火災訓練は夜間想定を含めて年2回実施(今年度は予定)されており、自然災害を想定した事業所独自の避難訓練も計画されています。災害備蓄品としての飲食品はあるものの、十分な量があるのかの把握ができていないため、課題が残ります。また軽油式の発電機も備えています。	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の性格や認知症の進行に合わせた声掛け、言葉使いや態度において入居者様の尊厳を守っている。	プライバシー確保に関する研修を行うまでには至っていませんが、尊厳を保持し、恥ずかしい思いをさせない声掛けになるよう、管理者から直接指導が行われています。トイレ誘導時も、さりげない声掛けになるよう配慮し、不適切なことがあった際には、職員同士で注意しあうよう努めています。	プライバシーの確保や尊厳の保持について、OJTや職員同士が注意をしよう環境を整えるだけでなく、日々のケアの振り返りや、再認識の機会にもなることから、計画的に研修を行うことが求められます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい雰囲気作りを心掛けている。本人の性格や嗜好を考慮して、少ない選択肢の中から選んでもらうなど質問の方法を工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務のスケジュールはあるが、日々の活動については無理強いはいらない。本人のペースを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服装やおしゃれを楽しんでもらえるように家族にもお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを考慮しながら、肉・魚・野菜などバランスよく摂れるようにしている。それぞれの能力に応じて調理や取り分けに参加してもらっている。	特別な食事形態(ムース食等)の方については配食サービスを利用していますが、常食に関しては3食とも手作りの食事を提供しています。献立は常勤職員が交代制で作成し、必要な食材を近所のスーパーから届けてもらっています。下拵えや調理・味見・盛り付けなどにも、積極的に参加してもらえるよう支援しています。季節ごとの行事や誕生日には、食事やおやつを工夫し、食を楽しめるよう配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し日々の摂取量を把握している。それぞれの状態に合わせ食事形態での提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。介助が必要な方は職員がブラッシングを行っている。必要に応じて訪問歯科による口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めそれぞれのパターンに応じたトイレ誘導を行っている。安易なおむつ使用は避け出来る限りトイレで排泄出来るように支援している。	日中におむつを使用している方はおられず、紙パンツや布パンツで過ごせるよう支援しています。一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄サインを見逃さないよう、声掛け誘導によりトイレで排泄できるようにしています。また、自然排便ができるよう、できるだけ薬に頼らず、飲み物や運動に工夫がなされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保と運動などで自然な排便コントロールが出来るようにしている。排便状況は記録し、下剤による排便コントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回のペースで入浴して頂いている。利用者ごとに曜日は決めていますが、その日の体調等を考慮して臨機応変に対応している。	週2回、午前中の中の入浴を基本としています。スタッフが配置や入居者の気分を見極めながら、臨機応変な対応をしています。皮膚の弱い方には専用のボディーソープやシャンプーを事業所が用意するようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や希望に応じて居室で休息してもらう時間を設けている。また、日中はなるべく活動的に過ごしてもらい夜間は安眠出来るように心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報をファイリングして、スタッフがいつでも確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や家事など、好きな事・出来る事を把握しそれぞれの得意分野で力を発揮出来るようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや外出のほか、本人の希望により近くのお店でランチをしたりしている。また、ご家族の協力により一緒に外出や外食を楽しんでもらっている。 今回、コロナ禍であり実施出来なかった。	コロナ禍の影響による自粛により、それまでのような外出はできないものの、敷地内での日光浴や外気浴、また近隣の散歩は行っており、閉じこもりがちにならないよう、現在の環境下でも外に出での気分転換などができるようにしています。受診の際に事業所の車を出すこともあり、外出気分を味わってもらおう機会にもなっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の希望があれば、事業所の立替により買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の取次ぎもしている。 ライン電話やライン動画でも提供している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じてもらえるように、季節に応じた飾りつけを入居者とスタッフで制作し飾っている。	貼り絵や塗り絵、またレクリエーションで四季を感じられるような作品を入居者と職員と一緒に作り、リビングに飾りつけしています。換気をこまめに行うことで、感染症予防の対策にもなっています。リビングにはソファや畳の小上がりもあり、ソファで談笑したり、小上がりでおやつを食べたり、お昼寝をしたりと、思いおみの過ごし方ができるようになっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うもの同士で座るテーブルの配置になっている。リビングにはソファやテレビを設置し利用者が思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、馴染みのある家具を使用している。居室内の飾りも本人や家族の好みで配置している。	全室畳敷きの居室になっています。入居時には使い慣れたものや馴染みのものを持参してもらうよう話をしており、位牌を置かれたりドレッサーを持ち込まれたりしている方もいます。また家族写真や自身で作られた作品を飾られる方もいます。起床時には換気を行い、感染症対策にも配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー対応になっており、利用者が安全に自立して生活が出来るように配置している。		